



現在の英語教育について

近年の英語学習

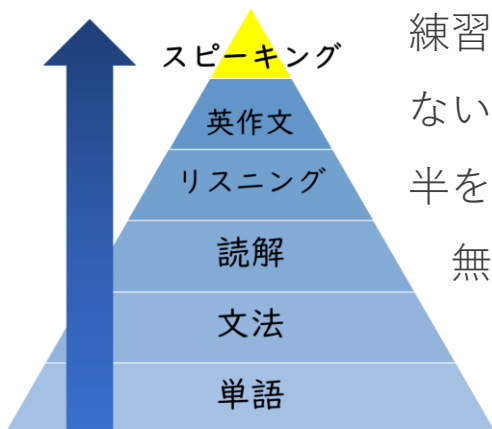
従来の学習スタイル

中1	中2	中3	入試前
テスト対策 単語・英文法 教科書本文	テスト対策 単語・英文法 教科書本文	テスト対策 単語・英文法 教科書本文	リーディング リスニング

今までの英語は“積み上げ”型の学習です。

定期テストも教科書の内容からほぼ全て出題されていたので、入試前までは英文法と教科書の英単語と本文の精読

練習がメインでした。特に英語が得意でない生徒は入試前も読解までで学習の大半を終えます。間違えないよう、ミスの無いよう覚える学習が大半でした。



現在の学習スタイル

小学生	中1	中2	中3	入試前
ライティング (英文法・作文)				
リーディング (教科書・初見英文)				
リスニング				
スピーキング				

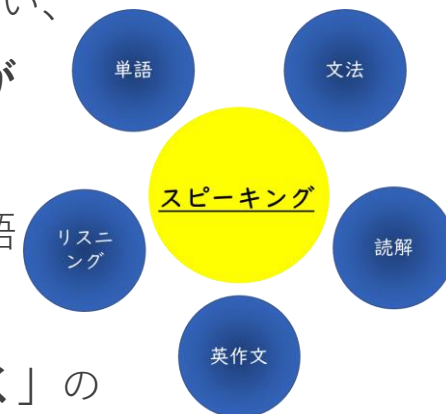
現在の英語学習は**4技能学習を同時**に行い、

定期テスト・入試でも実践的な英語力が問われるようになってきていることが

大きな変化と特徴です。私たちが日本語を身に付けてきたように、言語は本来

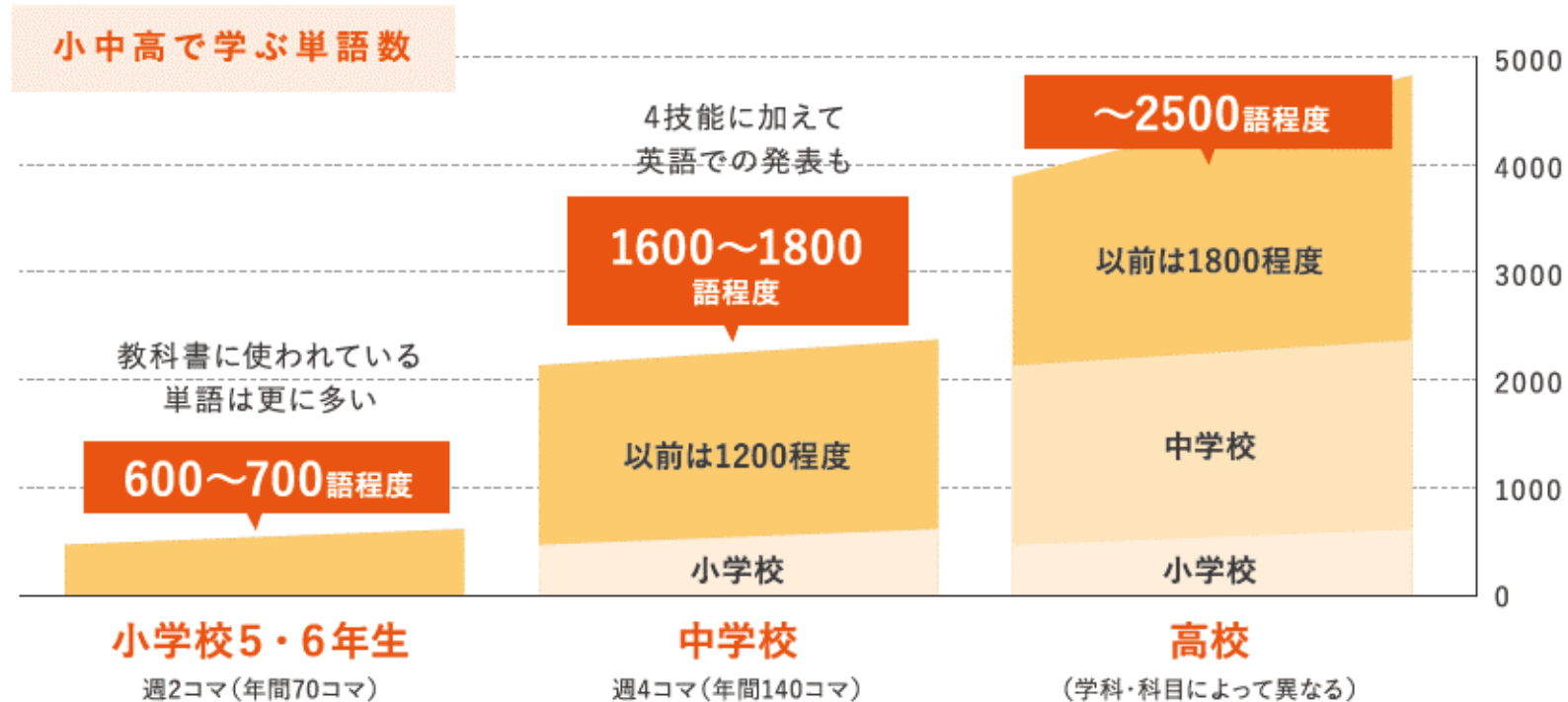
「聞く」→「話す」→「読む」→「書く」の

サイクルで学ぶことで「実践力」が養成されるのです。



これからの英語学習

求められる英語力 1 **小学生～高校生 習得単語数の大幅な増加**



今の学習指導要領では小学校～高校の間での授業時間は約1,000～1,200時間になります。中学入学前に身に付ける必要のある英単語数は約700語！これらがわかる・書ける前提で中学英語が始まるので、小学生のうちに英語にもきちんと目標設定をし、より多くの学習時間を割く必要が出てきています。

求められる英語力 2 **学習指導要領における「4技能5領域」の重視**



発表

どのように話したら相手に伝わるか
論理的に文章をまとめる力
Writingの力も必要

やり取り

相手の言っていることを瞬時に理解し返す力
Listeningの力はもちろん、
英語の語順のまま理解するためには
高いReadingの力も必要

単語数・授業時間数といった「量」的变化に限らず、学校における[授業形式](#)、つまり「質」そのものが大きく変化しています。中学校・高校での授業は[「英語で行うことが基本」](#)となり、Speakingの力がこれまで以上に重視されます。

これからの英語学習

求められる英語力3 高校・大学入試の変化と求められる4技能

都立高校入試

2023年の問題構成 (50分・100点満点) **ワード数3,158** ※リスニング含まず

問題番号	分野	内容	配点	問題数
1	リスニング	会話の内容一致・質問の正誤問題、自己表現文	20	5
2	長文読解	図表を用いた対話文の読解(空所補充)、及び英作文	24	4
3	長文読解	対話文の内容理解および空所補充	28	7
4	長文読解	物語文の内容理解および空所補充	28	7

配点の割合

長文読解 80%
リスニング 20%

+ **スピーキングテスト** (E-SATJ) **20点** ※SRJ調べ

千葉県公立高校入試

2023年の問題構成 (60分・100点満点) **ワード数1,618** ※リスニング含まず

問題番号	分野	内容	配点	問題数
1~4	リスニング	対話文の理解、要約文の空所補充等	33	11
5	文法	語形変化2問、語順順序3問	15	5
6	英作文	イラストを読み取り短い英作文	8	2
7	長文読解	図表・グラフを交えた英文の読解	18	6
8	長文読解	説明文の読解	13	4
9	長文読解	対話文の補充と短い英作文	13	4

配点の割合

文章読解 44%
リスニング 33%
文法 15%
英作文 8%

※SRJ調べ

大学入試

※共通テスト

配点 筆記200 : リスニング50 > 筆記100 : リスニング100

設問数 大設問 4問 > 6問 設問数増加 大設問+2問・マーク12問

回数 2回読み > 1回読み 短時間情報把握処理能力が実力差に
※第1・2問は2回読み/第3~6問は1回読み

単語数 1,142 > 1,528

現在の入試では、4技能のうちリーディング、リスニングを評価する割合が高い傾向があり、英語がわかるだけでなく、時間内に情報を処理する力も求められます。さらに、都立高校入試ではスピーキングだけで20点分のテストがあり対策は必須です。

求められる英語力 4 **小学5年生から始まった「教科化」の影響**

小学5年生から始まった教科化。

それに伴い「成績がつく」ようになりました。
これは、生徒間での得意不得意・好き嫌い
という**二極化**を国語・算数といった他の教科
同様に生み出す可能性を持っています。

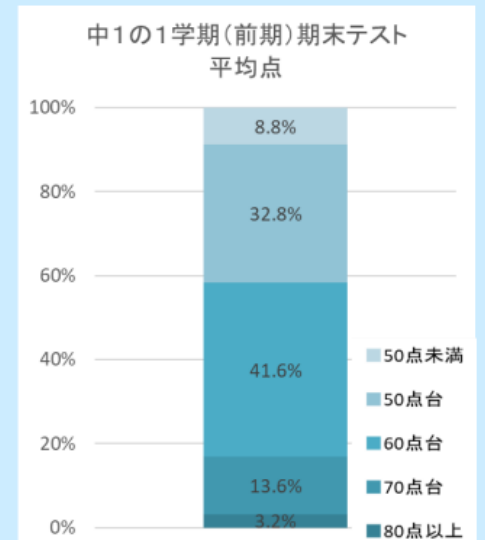
さらに、小学生のうちどのくらい英語の
学習を習慣化させ、身に着けているか、
その差が顕著に表れてしまうのは、

中学入学直後の最初の定期テストです。今や中1最初の定期テストから初見読解、リスニングなども含まれ、
出題形式も難化しています。中学に入ってからアルファベットからゆっくり・・・というペースはもう前のお話です。

中1(1学期期末)の平均点は約1/3の学校が**50点台**！

中1(2022年度)の1学期定期テストにおいて、
中間テストで34%が60点台、期末テストで32.8%が50点台。
これまでの中1の1学期定期テストの平均点イメージとは
全く異なる結果となりました。
期末テストでは、50点以上70点未満が74.4%となり、
かつての平均点80点～90点の時代は終わったことがわかります。

▶小学5・6年で英語が教科になった学年から
小学英語の学習の定着が前提で中学英語に続くため、
中学英語全体のテストのレベルが上がっている！



(株) エデュケーショナルネットワーク調査(2022年10月)より

エルヴェでの英語指導スタイル エルヴェ学院

英語をインプットする技能

英語をアウトプットする技能

🔊 Listening

📖 Reading

✍️ Writing (含・文法)

🗨️ Speaking

定期テストで主に求められる力

高校入試・大学入試で主に求められる力 / 英検の1次試験

ESAT-J

英検2次試験

リスニング

聴いた内容を理解する

速読

時間内に速く正確に文章を理解する

精読

文構造の理解
英答問題

文法問題・英作文

自分で英語を書く

スピーキング

通じる英語を話す

TERRACE

個別指導

OLECO/GeT

⇒定期テストで英語の成績を伸ばすには、**個別指導** + **TERRACE**

⇒入試や英検対策として、実力を上げるには**個別指導** + **TERRACE** + **OLECO**

の組み合わせ学習スタイルがおすすめ！